

私たちの地域を守る消防団



● 問合せ 消防調整課消防団係 (☎232117)

皆さんは、消防団やその活動をどれくらい知っていますか。

消防団は、「消防本部や消防署の職員と違い、本業を持ちながら、『自分たちの地域は自分たちで守る』という精神に基づき、地域の安全を守るために活躍している人たちの集まりです。しかし、近年、消防団を取り巻く環境は、就業構造の変化（いわゆるサラリーマン団員の増加）や、若年層の都市部への流出、地域の連帯意識の希薄化などにより変化してきています。市消防団員の数は15年前と比べて200人以上減少し、平均年齢は36歳（3月31日現在）と比較的高く、若者の入団促進が急務となっています。

このようなことから、今回の特集では、消防団やその活動を皆さんに知ってもらうための消防団への仮想入団体験や、団員の活動や思いなどを通して、消防団の活動や必要性について考えます。



1月に二里小学校グラウンドで行われた消防出初式での分列行進の様子



消防団 豆知識

● 消防署員と消防団員の違いは

- ▷ 消防署員は、消防や救急、救助を専門とする地方公務員です。あらゆる災害における第一線の活動部隊としての役割を果たし、24時間体制で災害に備えています。
- ▷ 消防団員は、自営業や会社員などそれぞれの仕事を持ちながら、火災や大規模災害時には自宅や職場から現場へ駆け付け、その地域での経験を生かした消火・救助活動などを行います。

● 消防団員の身分と処遇は

- ▷ 特別職の地方公務員です。
- ▷ 消火活動、訓練などに対して報酬が支給されます。
- ▷ 5年以上勤務した団員には、退団時に在職年数などに応じて退職報償金が支給されます。
- ▷ 消防団活動により負傷した場合は、公務災害補償制度に基づいた補償や、福祉共済制度に基づいた入院見舞金の支給があります。

● どんな活動をするの

- ▷ 火災・風水害発生時の消火活動や救助活動、警戒警備、行方不明者の捜索など
- ▷ 夏季訓練・夏季点検、広報活動、家庭の火の元点検、年末警戒、消防出初式、春・秋の火災予防運動、火災防御訓練など

● 女性消防団も活躍しています

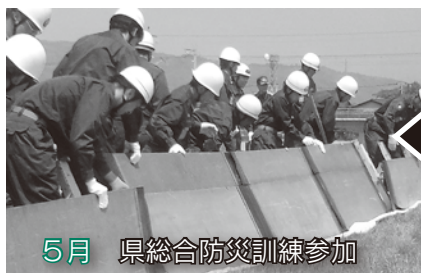
- ▷ 一人暮らしの高齢者宅への防火安全訪問や防火劇など火災予防の啓発
- ▷ 応急手当指導員の資格を取得し、応急処置、手当の指導講習への参加
- ▷ 災害発生時の炊き出しなど被災者の支援



消防団はどんな活動を しているのでしょうか

消防団は年間を通じてどのような活動をしているのか、仮想入団体験をしてみましょう。

それでは入団体験スタートです。



5月 県総合防災訓練参加

↑佐賀県総合防災訓練に参加し、災害に対する備えを万全にしています



5月 消防団入団式

↑消防団員としての辞令をもらいます。さあ、消防団活動の始まりです



6月 各種訓練 (初任者訓練など)

↑規律正しい行動ができるように訓練を行います



8月 夏季訓練

↑暑いですが、市民の皆さんのために頑張ります



11月 合同訓練

↑実際の火災を想定して訓練を行います



10月 危険予知訓練

↑公務災害を防止するために、机上訓練を行います



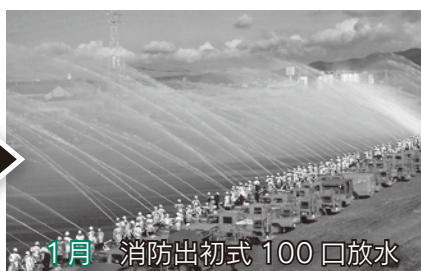
8月 夏季点検 (ポンプ操法大会)

↑節度とタイムを競います。これで小型動力ポンプの取り扱いが万全です



12月 年末警戒

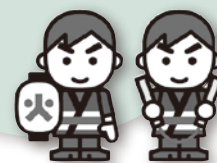
↑市民の皆さんの安全安心のため、年末警戒を行います



1月 消防出初式 100口放水

↑平成26年の消防団活動が始まりました

消防団仮想入団体験はいかがでしたか。私たちは、皆さんの安全を守るため、いろいろな訓練や警戒など、年間を通じて頑張っています。



事業所も 協力しています

消防団の活性化のためには、団員の多くを占めるサラリーマンが入団しやすく活動しやすい環境を整備することが重要です。そのためには企業や事業所の理解と協力が不可欠です。国や市では、消防団活動に協力している事業所に対して表示証を交付する「総務省消防庁消防団協力事業所表示制度」、「伊万里市消防団協力事業所表示制度」をそれぞれ導入しています。

このたび、昭和金属伊万里株式会社(消防団員21人(内市消防団16人)所属)が「総務省消防庁消防団協力事業所」に認定され、3月17日に事業所で伝達式が行われました。これは県内で7例目で、市内では株式会社フタバ九州、伊万里市農業協同組合、名村造船所伊万里事業所に続いて4例目となります。



↑消防団協力事業所に認定された昭和金属伊万里株式会社の皆さん(前列2人)

わがまちの団員と その思いを紹介します

伊万里市消防団は、市民の尊い生命や財産を、火災などの災害から守るため日夜頑張っています。現在市内には12の分団があり、998人の団員が災害の警戒に当たったり、災害現場に出動したりして地域の安全確保のために活躍しています。

ここでは、その団員の中から、地域のホープとその思いを紹介します。



1月に行われた消防出初式での市長観閲の様子



団本部

女性部 (団員)
川久保 咲子

(久原一区)



県女性消防団活性化セミナーでは、ゴレンジャーに扮し、保育園児向けの事例発表をしました。伊万里市女性消防団ここにありとアピールできたらと思います。今年も団員一丸となって楽しく活動したいと思います。

各分団のホープ紹介



大坪分団

第8部 (団員)
川尻 修平
(つしげ丘)



入団2年目の昨年、県消防操法大会に市代表で出場しました。約3か月間の訓練を経て大会に臨み、消防職員や先輩団員、地元住民の心温まるご支援、ご指導を受け、仲間と共に戦いました。この経験を消防団活動に生かし、大好きな地元を守っていきます。



牧島分団

第4部 (団員)
池田 幸輔
(脇田)



伊万里に引っ越してきて、何か地域の活動に参加したいと思っていたところ、分団の先輩に声をかけていただき入団しました。まだ訓練や広報活動に参加する程度ですが、地域貢献の思いを強く持ち、活動していきたいと思っています。



伊万里分団

第3部 (団員)
鶴殿 太誠
(松島)



平成25年4月に伊万里分団に入団しました。毎月の火災予防広報活動など先輩方と協力し、ご指導を頂きながら、少しでも地域のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



波多津分団

第5部 (団員)
田中 真樹
(田代)



先輩から誘われて同年代の2人と共に平成23年4月に入団しました。各種訓練などに参加する中で消防団活動の大変さ、大事さがわかりました。微力ではありますが、これからも地域に貢献できるよう他の団員と協力し、活動していきます。



黒川分団

第1部 (団員)
小嶋 英幸
(塩屋)



同級生や地域の方に誘われて入団しました。入団してから繋がりが一層強くなったように感じています。消防団活動に真剣に取り組み、地域住民の方々のために、災害を少しでも減らせるよう頑張っていきたいと思っています。



大川内分団

第5部 (団員)
市川 浩光
(大川内山)



父も元消防団員で、昨年3月に帰郷したのを機に入団しました。先輩団員の頑張っている姿を見て、これまで安心して暮らせたのも先輩たちが努力されていたからだと気がきました。訓練はきついですけど、地域の人々の安全のために頑張ります。



松浦分団



第2部 (団員)
松尾 康
(東 分)

平成 24 年 4 月に入団し、2 年になります。入団してすぐに建物火災に出勤し、消火活動したことが記憶に新しく、あらためて、災害のない松浦町になるよう消防団員として貢献できればと思っています。

大川分団



第5部 (団員)
中尾 祐也
(東田代)

先輩の方に誘われ、消防団活動には興味があり入団しました。東日本大震災での消防団活動などをテレビで見て、自分のまちは自分で守るという意志が芽生えました。地域に貢献できるように頑張っていきます。

南波多分団



第1部 (団員)
堀田 啓介
(井手野)

平成 25 年 4 月に入団しました。消防訓練や火災予防広報活動、年末警戒や出初式などへ先輩方のご指導により参加しています。そのような活動を通じ消防団の絆の強さを感じています。消防団員として地域に貢献できることを誇りに思います。



地域を守る伊万里市消防団

山代分団



第6部 (団員)
松永 祐樹
(東 分)

地域の人に誘われて、消防団に入団しました。最初はわからないことばかりでしたが、消防団活動や訓練などに参加していくうちに消防団の大切さや必要性を痛感しました。これからも、地域の人たちが安心して住めるよう頑張っていきます。

東山代分団



第4部 (団員)
岩永 武蔵
(国 見)

地域の先輩に誘われて入団して2年目になります。初任者訓練などを受けて集団行動の難しさや、大事さを学びました。まだわからないことばかりですが、先輩方に指導してもらい、消防団活動を通じて地域に貢献できるよう頑張っていきます。

二里分団



第1部 (団員)
西岡 文太郎
(西八谷)

4月に入団したばかりで、消防団員としての役割をまだはつきりと理解できていないわけはありませんが、これまで地域の人にお世話になった分、少しでも地域にお返しできるよう努力していきたいと思っています。

消防団の主役は、市民の皆さんです。自分たちの地域の安全を守り、安心して暮らすためには、地域や事業所の協力のもと消防団の活動が欠かせません。あなたの『力』が必要です。安全で安心できるまちをめざして、団員とともに活動しませんか。

消防団とその活動に
理解と協力を



(毎月) 火災予防広報

↑ 災害などを防ぐため、春季・秋季火災予防運動期間中だけでなく、毎月広報活動を行っています。